

ピアホームだより

2019. 7.10

再発予防について

一顧問医白石弘巳講演から一

前回に続き、白石先生の講演から再発予防について掲載します。

まず、「感情表出の研究」があります。これは、主として親御さんとか、同じ屋根の下で暮らすしてる方が、その患者さんをどう見ているか、同いう態度をとっているかについて調べたものです。その結果感情的に巻き込まれているとか、批判的な敵意が強い、そういう場合に再発が多いということが明らかになりました。この再発に影響を与える要因をじっと見ていると色んな事が学べるんじゃないかと思います。

まず、E Eが低いとか高いとか書いてあるんですけど、E Eが高いとは、感情的に巻き込まれ過ぎていたり、批判的になり過ぎていたりする人です。研究では、再発率が13%と51%というのですね。欧米だけじ

やなくて日本でも伊藤純一郎先生などが調査をして確かめています、同じ屋根の下で暮らしていて巻き込まれ過ぎとそうでない場合とでは同じような再発率の違いを見出しています。で、どうするのかといった時のヒントが、対面時間35時間未満とそれ以上と分けた時です。28%と69%になります。問題のある対応をしている場合、接する時間を短くすればいいわけです。更に対面時間35時間未満で薬の有り無しでみると、15%と42%の違いがありました。ここで、環境に問題のない人は服薬有り無しで12%15%でほとんど一緒です。35時間以上の人を見ると服薬ありでも53%服薬なしだと92%になってしまうというこなんです。

結局、環境の方が薬より大事ってことになると思うのです。

ここで言われていないことが実は大事だと私は思っています。この研究は家族研究ですが、これはたまたま家族に着目したからこういうことになったので、社会で、本人を甘やかすってことはないのかもしれませんが、ご本人が差別や偏見とかを職場や学校で感じれば自分の周りの環境を高E E

と感じるわけですね。むしろ、再発率が高いのは、本人が家の外で暮らしている環境の方なんじゃないかと考えると、薬はもちろんです、**「障害を持っている人に優しい社会」とか「障害を持っている人が暮らしやすい環境をつくる」という働きかけをする方が大事ってことが、このことから示唆されるのではないかと思います。**

薬・心理社会療法・環境調整は順序が逆で環境調整・心理社会療法・薬になると思います。

オープンダイアログは患者さんと話すことの重要性を知らせてくれています。コミュニケーションが取れるか取れないかでkaikawakas 割ってくることが十分あり得ると思うのですね。

私が最近、土佐病院の尊敬する須藤浩一郎先生の所へ行ってお話をお伺いしましたら「会話は質より量だ」と言っておられました。それがオープンダイアログということの本質じゃないかと私は思います。

今月の予定

<7月17日>都グループホーム説明会